

突然のオスプレイ飛来に抗議

連合北海道は、8月4日に米軍横田基地所属のオスプレイ2機が、事前通告もなく、航空自衛隊千歳基地に着陸し、前日には後志管内の上空でオスプレイ3機の見撃情報を受け、5日に北海道防衛局に抗議した。



この間、連合北海道では、墜落事故を繰り返すオスプレイの運用に反対し、周辺自治体では再三にわたる飛行情報の公開を求めてきたにも関わらず、今回のオスプレイ飛来は極めて遺憾であり、日米間の信頼を損なうものであると訴えた。

防衛局からは、情報を得られた場合には自治体に周知しており、今後も情報が得られた場合は引き続きお知らせしたい旨の回答があった。連合北海道からは2013年に高知県で問題となった、「米軍の運用に関わることは承知していない」としながらも国土交通省や防衛省が事前に把握していたことを例にあげ、日米地位協定で認められているだけでは済まされないと抗議した。また、横田基地で新型コロナウイルス感染症が確認されている中、道民は不安になっていると訴えるとともに、領土問題にも影響があることを指摘した。

連合北海道は、在日米軍の特権を認めた日米地位協定の抜本の見直しを求めるとともに、北海道においても夜間飛行や低空飛行が常態化しないよう、北海道の平和と軍縮を求めていく。